平成31年2月4日付　信濃毎日新聞

2位の篠原 「次こそ1位」

ショート少年女子500

○…ショートトラック少年女子500㍍で2位に入った篠原は「悔しさがある」と満足していなかった。

カナダで行われた世界ジュニア選手権に出場し、1月30日に帰国したばかりで「コンディションは良くなかった」。決勝はスタートで出遅れ、その後も前の選手を抜けず3位でゴール。だが、1位でゴールした選手が妨害行為で失格となり、2位に繰り上がった。「仕掛けるタイミングが遅かった」と反省した。

ただ、400㍍トラックからショートに軸足を移した今季は、世界ジュニア選手権を経験するなど力をつけている。伸び盛りの高校2年生は「来年も国体に出たら）次こそは1位を取る」と力を込めた。

ショートトラック

▽成年男子500㍍決勝 ①松津秀太（埼玉・阪南大）42秒481 ▽成年男子5000㍍リレー決勝 ①埼玉（梅田、松津、河合、吉田）7分41秒108 ▽同順位決定戦 ⑦長野（伊藤、古屋、篠原、岩下）7分50秒163 ▽成年女子500㍍決勝 ①横山世奈（愛知・トヨタ自動車）46秒224 ②山浦美和子（佐久大）46秒396 ④小池佑奈（中京大）46秒734 ▽成年女子3000㍍リレー決勝 ①長野（山浦、小池、水野、岩下）4分37秒450 ▽少年男子500㍍決勝 ①宮田将吾（大阪・大商大高）42秒585 ②小池克典（岡谷南高）42秒771 ▽同順位決定戦 ⑥林伊吹（地球環境高）45秒214 ▽少年女子500㍍決勝 ①長森遥南（兵庫・親和女高）47秒861 ②篠原理沙（小海高）47秒865

◇県関係成績

▽成年男子500㍍予選 「5組」③篠原克哉（明大）46秒850＝落選 「6組」①岩下稜（専大）45秒969＝準々決勝進出 ▽同準々決勝 「3組」④岩下稜（専大）45秒664＝落選 ▽成年女子500㍍予選 「1組」①山浦美和子（佐久大）47秒296＝準々決勝進出 「4組」①小池佑奈（中京大）46秒786＝準々決勝進出 ▽同準々決勝 「1組」①山浦美和子（佐久大）46秒409＝準決勝進出 「3組」①小池佑奈（中京大）46秒743＝準決勝進出 ▽同準決勝 「1組」①山浦美和子（佐久大）46秒296＝決勝進出 「2組」①小池佑奈（中京大）46秒883＝決勝進出 ▽少年男子500㍍予選 「1組」①小池克典（岡谷南高）43秒369＝準々決勝進出 「4組」①林伊吹（地球環境高）43秒977＝準々決勝進出 ▽同準々決勝 「2組」①小池克典（岡谷南高）42秒683＝準決勝進出 「3組」①林伊吹（地球環境高）43秒053＝準決勝進出 ▽同準決勝 「1組」①小池克典（岡谷南高）42秒720＝決勝進出 「2組」③林伊吹（地球環境高）53秒796＝順位決定戦へ ▽少年女子500㍍予選 「3組」①篠原理沙（小海高）48秒412＝準々決勝進出 「5組」④水野愛香（岡谷東高）50秒647＝落選 ▽同準々決勝 「2組」①篠原理沙（小海高）47秒080＝準決勝進出 ▽同準決勝 「1組」②篠原理沙（小海高）47秒343＝決勝進出

県勢 スピード5種目制す

国体スケート 最終日

海道釧路市の柳町スピードスケート場などで行われた。県勢はスピードで5種目を制し、ショートトラック成年女子3000㍍は福岡歩里（東海大諏訪高）が1位、百瀬愛美（岡谷東高）が2位に入った。

【1面参照】

第74回国体冬季大会スケート、アイスホッケー競技会最終日は3日、北海道釧路市の柳町スピードスケート場などで行われた。県勢はスピードで5種目を制し、ショートトラック成年女子3000㍍は福岡歩里（東海大諏訪高）が1位、百瀬愛美（岡谷東高）が2位に入った。

スピードの成年男子1000㍍は小島良太（信州大）、少年男子100㍍は大門飛路（岡谷東高）がそれぞれ競り勝った。少年女子3000㍍は4連覇を飾った。

少年女子1000㍍は両角ほのか（東海大諏訪高）が2位に入った。

スケート競技会の男女総合（天皇杯得点）は長野が195点を獲得して4連覇。女子総合（皇后杯得点）は長野が102点で4年連続優勝した。

来年の大会は青森県で開催される。

▽スケート天皇杯得点 ①長野195 ②北海道176 ③山形122

▽スケート皇后杯得点 ①長野102 ②愛知66 ③北海道64

▽アイスホッケー天皇杯得点 ①北海道90 ②青森70 ③栃木65 ④長野15

この流れ続けたい

山岸文典・県選手団総監督の話 最大のライバル北海道の地で、前日までの大差をひっくり返しての大差をひっくり返しての大差をひっくり返しての